

第五十一回 貴族院議事速記録第二十一號

大正十五年三月五日(金曜日)

午前十時十四分開議

議事日程 第二十一號 大正十五年三月五日

午前十時開議

第一 健康保險法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第二 健康保險特別會計法案(政府提出)

第一讀會

第三 民事訴訟法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第四 民事訴訟法中改正法律施行法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔長書記官朗讀〕

一 昨三日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

簡易生命保險法中改正法律案

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

日本勸業銀行法中改正法律案

農工銀行法中改正法律案

北海道拓殖銀行法中改正法律案

同日請願委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

請願文書表第六回報告書

昨四日造幣局工場其ノ他改築費ニ關スル法律案外一件特別委員會ニ於テ當

選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長 伯爵 二荒 芳徳君 副委員長 澤柳政太郎君

同日特別委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

民事訴訟法中改正法律案修正報告書

民事訴訟法中改正法律施行法案修正報告書

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、諸君ニ於テ御異議ゴザイマセスケレバ、日程第一、第二ハ一括シテ議題ト致シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 日程第一、健康保險法中改正法律案、第二、健康保險特別會計法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、俵内務政務次官

健康保險法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十五年三月二日

衆議院議長 粕谷義三

貴族院議長公爵徳川家達殿

健康保險法中左ノ通改正ス

附則ヲ左ノ如ク改ム

本法ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

健康保險特別會計法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十五年三月二日

衆議院議長 粕谷義三

貴族院議長公爵徳川家達殿

健康保險特別會計法

第一條 健康保險事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ保險料、一般會計ヨリ繰入ルル金額、積立金ヨリ生スル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ保險給付費、保健施設費、借入金ノ償還金及其ノ利子、一時借入金ノ利子、事業取扱費、營繕費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第三條 前條ノ一般會計ヨリ繰入ルル金額ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險給付ニ要スル費用ノ十分ノ一トス但シ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ニ規定スル被保險者ノ員數ノ計算ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 本會計ニ於テ決算上剩餘金ヲ生スルトキハ之ヲ積立ツヘシ

本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スヘシ

第五條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ借入ヲ爲スコトヲ得ル金額ハ保險料ヲ以テ保險給付費及保健施設費ヲ支辨スル能ハサル場合ニ借入ルモノヲ除クノ外最高五百萬圓トス

第六條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ大藏省預金部ニ之ヲ預入ルルコトヲ得

第七條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲シ又ハ國庫餘裕金ヲ繰替使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金又ハ繰替金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スヘシ

第八條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第九條 本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ

定ム

附 則

本法ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員俵孫一君演壇ニ登ル〕

○政府委員(俵孫一君) 唯今上程ニ相成リマシタ健康保險法中改正法律案、竝ニ健康保險特別會計法案ニ付キ御説明申上ゲマス、健康保險法ノ施行期日ハ御承知ノ通り勅令ヲ以テ定ムルコトニナツテ居リマスノデアリマス、今回之ニ關スル政府ノ方針ガ決定イタシマシテ、同法ノ附則ヲ改正シテ、改メテ法律ヲ以テ施行期ヲ明定イタスコトニ相成ツタノデアリマス、之ガ施行ノ圓滿ヲ期スル爲ニ、其期日ヲ二段ニ分チマシテ、先ヅ大正十五年七月一日ヨリ同法ノ一部ヲ施行スルコトニ致シマシテ、以テ諸般ノ準備ヲ整ヘマシテ、大正十六年一月一日ヨリ保險料ノ徵收、保險給付ノ支給ヲ開始イタシマスルトニ致シタノデゴザイマス、又次ニ健康保險特別會計法ニ付キマシテ御説明申上ゲマスルガ、健康保險法ハ、別ニ提出イタシマシタ所ノ同法中改正法律案ニ明定イタシマシタ如ク、大正十五年度ヨリ之ガ施行ヲスルノ計畫デゴザイマスノデアリマスガ、健康保險ノ事業ハ、被保險者及之ヲ使用スル事業主ノ負擔ヲ致シマスル所ノ保險料ヲ以テ、保險給付ニ要スル費用ニ充ツルモノデアリマスルカラ、政府ニ於テ管掌イタシマスル所ノ健康保險事業モ、性質上其歲入歲出ハ一般會計ト區分イタシマシテ、特別會計ヲ設ケテ、特別ニ經營スルコトヲ適當ト認メマスルカラ、法案ヲ提出イタシマシタ次第デアリマス、次ニ本案ノ内容ニ付テ、主ナル點ヲ聊カ申述ベテ置キマスルガ、第一本會計ノ歲入ハ、保險料及一般會計ヨリ繰入金、即チ國庫負擔金ガ主ナルモノデアリマシテ、其他積立金ヨリ生ズル收入、歲入不足ノ場合ニ於テ爲スルノ借入金等デアアルノデアリマス、國庫負擔金ハ健康保險組合ニ對スル國庫負擔ト歩合ヲ合セ、原則トシテ保險給付ノ費用ノ一割ノ額デアリマス、第二ニ歲出ハ、法定ノ保險給付費及被保險者ノ健康保持ノ爲ニ施設スル所ノ事業ノ費用、事務費等ガ其主ナルモノデアアルノデアリマス、而シテ本會計ニ於テ決算上剩餘ヲ生ジマスル時ハ、之ヲ積立テテ、歲入不足ノ場合ニ、之ヲ補足スルノ計畫デアアルノデアリマス、願ハクハ御審議ノ上協賛ヲ與ヘラレムコトヲ御願ヒ申シマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御質疑モナイト認メマスカラ、同案ノ特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

〔成瀬書記官朗讀〕

健康保險法中改正法律案外一件特別委員

伯爵 柳原 義 光君 喜納 治五郎君 神野 勝之助君

男爵 關 義 壽君 川村 竹治君 永田 秀次郎君

金杉 英五郎君 橋本萬右衛門君 津村 重舍君

○議長(公爵徳川家達君) 日程第三、第四ハ同一委員ニ付託セラレマシタカラ、委員長ノ報告モ一括シテ煩ハスコトニ致シマス、日程第三、民事訴訟法中改正法律案、第四、民事訴訟法中改正法律施行法案、政府提出、第一讀會

ノ續、委員長報告、特別委員長伊東子爵 民事訴訟法中改正法律案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正十五年三月四日

右特別委員長

子爵 伊 東 祐 弘

貴族院議長公爵徳川家達殿

(特別委員ノ修正ニ係ル條ノミヲ印刷シ其ノ他ハ之ヲ略ス小字ハ修正文ハ同消除ノ符號ナリ)

第十五條 不法行爲ニ關スル訴ハ其ノ行爲アリタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

○其ノ他海上ノ事故

船舶ノ衝突ニ基ク損害賠償ノ訴ハ損害ヲ受ケタル船舶カ最初ニ到達シタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第三十五條 判事ハ左ノ場合ニ於テハ法律上其ノ職務ノ執行ヨリ除外セラ

ル

一 判事又ハ其ノ妻若ハ妻タリシ者カ事件ノ當事者ナルトキ又ハ事件ニ

付當事者ト共同權利者、共同義務者若ハ償還義務者タル關係ヲ有スルトキ

二 判事カ當事者ノ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ナルトキ又ハナリシトキ

三 判事カ當事者ノ後見人○、後見監督人、保佐人又ハ同居ノ戸主若ハ家族ナルトキ

四 判事カ事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

五 判事カ事件ニ付當事者ノ代理人又ハ輔佐人ナルトキ又ハナリシトキ

六 判事カ事件ニ付仲裁判斷ニ關與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル前審ノ裁判ニ關與シタルトキ但シ他ノ裁判所ノ囑託ニ因リ受託判事トシテ其ノ職務ヲ行フコトヲ妨ケス

第五十七條 法定代理權ノ消滅ハ本人又ハ代理人ヨリ之ヲ相手方ニ通知スルニ非サレハ其ノ效ナシ但シ相手方カ其ノ事實ヲ知リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依ル當事者ノ變更ニ之ヲ準用ス

第八十二條 數人ノ訴訟代理人アルトキハ各自當事者ヲ代理ス

當事者カ前項ノ規定ニ異ル定ヲ爲スモ其ノ效力ヲ生セス

第八十三條 第八十一條及前條ノ規定ハ法令ニ依リテ裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ權限ヲ妨ケス

○裁判所ノ審訊、

第四百二十九條 第四百二十二條乃至前條ノ規定ハ受命判事又ハ受託判事ノ審問及證據調ニ之ヲ準用ス

第七十條 當事者、法定代理人又ハ訴訟代理人○受訴裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有セサルトキハ其ノ所在地ニ於テ送達ヲ受クヘキ場所及送達受取人ヲ定メ之ヲ届出ツルコトヲ得

○裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スルコト明ナラサル場合ニ於テ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ者ニ對シテ送達スヘキ書類ハ前條第一項ノ規定ニ依リ送達スヘキ場所ニ宛

ル場合ニ於テ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ者ニ對シテ送達スヘキ書類ハ前條第一項ノ規定ニ依リ送達スヘキ場所ニ宛

ル場合ニ於テ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ者ニ對シテ送達スヘキ書類ハ前條第一項ノ規定ニ依リ送達スヘキ場所ニ宛

ル場合ニ於テ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ者ニ對シテ送達スヘキ書類ハ前條第一項ノ規定ニ依リ送達スヘキ場所ニ宛

ル場合ニ於テ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ者ニ對シテ送達スヘキ書類ハ前條第一項ノ規定ニ依リ送達スヘキ場所ニ宛

ル場合ニ於テ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ者ニ對シテ送達スヘキ書類ハ前條第一項ノ規定ニ依リ送達スヘキ場所ニ宛

ル場合ニ於テ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ者ニ對シテ送達スヘキ書類ハ前條第一項ノ規定ニ依リ送達スヘキ場所ニ宛

ル場合ニ於テ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ者ニ對シテ送達スヘキ書類ハ前條第一項ノ規定ニ依リ送達スヘキ場所ニ宛

ル場合ニ於テ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ者ニ對シテ送達スヘキ書類ハ前條第一項ノ規定ニ依リ送達スヘキ場所ニ宛

テ郵便ニ付シテ之ヲ發送スルコトヲ得

第一項ノ届出ハ途達ヲ受クヘキ者カ受訴裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第百八十九條 判決ノ言渡ハ^{○判決原本ニ基キ}裁判長主文ヲ朗讀シテ之ヲ爲ス

裁判長ハ相當ト認ムルトキハ判決ノ理由ヲ朗讀シ又ハ口頭ヲ以テ其ノ要領ヲ告クルコトヲ得

第百九十條 判決ノ言渡ハ口頭辯論終結ノ日ヨリ^二一週間内ニ之ヲ爲ス 但シ事件繁雜ナルトキ其ノ他特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

判決ノ言渡ハ當事者カ在廷セサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第百九十二條 判決ハ言渡^{後遲滞ナク}ノ日ヨリ一週間内ニ之ヲ裁判所書記ニ交付シ書記ハ言渡及交付ノ日ヲ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

第百九十四條 判決ニ違算、書損其ノ他之ニ類スル明白ナル誤謬アルトキハ裁判所ハ何時ニテモ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ更正決定ヲ爲スコトヲ得但シ判決ノ主文又ハ理由ニ影響ヲ及ホスヘキ場合ニ限ル

更正決定ハ判決ノ原本及正本ニ之ヲ附記スルコトヲ要ス但シ正本ニ附記スルコト能ハサルトキハ決定ノ正本ヲ作り之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

更正決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得但シ判決ニ對シ適法ノ控訴アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十六條 財産權上ノ請求ニ關スル判決ニ付テハ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ^{○申立ニ因リ又ハ}職權ヲ以テ擔保ヲ供シ又ハ供セスシテ假執行ヲ爲スコトヲ得ヘキコトヲ宣言スルコトヲ得

前二項ノ宣言ハ判決主文ニ之ヲ掲クルコトヲ要ス

第二百四條 決定及命令ハ相當ト認ムル方法ヲ以テ之ヲ告知スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

裁判所書記ハ告知ノ方法、場所及年月日ヲ裁判ノ原本ニ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

第二百三十八條 當事者雙方カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ辯論ヲ爲サスシテ退廷シタル場合ニ於テ^三六月内ニ期日指定ノ申立ヲ爲ササルトキハ訴ノ取下アリタルモノト看做ス

第二百六十九條 第二百六十七條第二項ノ規定ニ依リテ宣誓ヲ爲シタル當事者又ハ法定代理人カ虚偽ノ申述ヲ爲シタルトキハ宣誓ヲ爲サシメタル裁判所決定ヲ以テ^{五百}千圓以下ノ過料ニ處ス

第二百九十六條 裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ後ニ訊問スヘキ證人ニ^{在廷テ許ス}一時退廷ヲ命スルコトヲ得

第三百三十六條 裁判所カ證據調ニ依リテ心證ヲ得ルコト能ハサルトキ其ノ他必要アリト認ムルトキハ^{○申立ニ因リ又ハ}職權ヲ以テ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當事者ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百三十九條 宣誓シタル當事者カ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ裁判所決定ヲ以テ^{五百}千圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百三十一條第二項ノ規定ハ前項ノ決定ニ之ヲ準用ス

第三百六十一條 財産權上ノ請求ニ關スル判決ニ對シテハ控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ價額カ^三三百圓ニ滿タサル場合ニ於テハ再審ノ事由アルニ非サレハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ訴訟ノ目的ノ價額カ^三三百圓以上ナル事件ニ付裁判所カ訴訟ノ一部ニ付爲シタル判決ニハ之ヲ適用セス

第一項ノ價額ハ控訴提起ノ時ヲ標準トシテ之ヲ定ム

控訴審ニ於テ擴張シタル請求ノ價額ハ第一項ノ價額ニ之ヲ算入セス

第一項ノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ハ^三三百圓ト看做ス

第二十三條ノ規定ハ第一項ノ價額ノ算定ニ之ヲ準用ス

第三百六十四條 控訴ハ控訴審ノ終局判決アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

第二百三十六條第一項但書第二項第三項、第二百三十七條第一項及第二

百三十八條ノ規定ハ控訴ノ取下ニ之ヲ準用ス

第三百七十一條 第二百二十八條ノ規定ハ控訴狀カ第三百六十八條第二項ノ規定ニ反スル場合、法律ノ規定ニ從ヒ控訴狀ニ印紙ヲ貼用セサル場合

違背

及控訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第三百七十三條 被控訴人ハ控訴權消滅ノ後ト雖口頭辯論ノ終結ニ至ル迄

附帶控訴ヲ爲スコトヲ得附帶控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ價額カ三百圓

ニ滿タサルトキ亦同シ

第四百二十四條 再審ノ訴ハ當事者カ判決確定後再審ノ事由ヲ知リタル日

三十日

ヨリ二週間内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

判決確定後五年ヲ經過シタルトキハ再審ノ訴ハ之ヲ提起スルコトヲ得

ス

再審ノ事由カ判決確定後ニ生シタルトキハ前項ノ期間ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民事訴訟法中改正法律施行法案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正十五年三月四日

右特別委員長

子爵伊東祐弘

貴族院議長公爵德川家達殿

特別委員ノ修正ニ係ル條ノミナ印
刷シ其ノ他ハ之ヲ略ス小字ハ修正
文ハ同削除ノ符號ナリ

第二條 新法ハ新法施行前ニ生シタル事項ニ亦之ヲ適用ス但シ舊法ニ依リ

テ生シタル效力ヲ妨ケス

第十一條 新法施行前ヨリ繫屬スル訴訟ニ付言渡シタル判決ニ對シテハ上

訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ價額三百圓ニ滿タサル場合ニ於テモ上訴ヲ爲スコトヲ得

〔子爵伊東祐弘君演壇ニ登ル〕

○子爵伊東祐弘君 民事訴訟法中改正法律案竝ニ民事訴訟法中改正法律施行法案ノ特別委員會ノ御報告ヲ申上ゲマス、兩案ノ特別委員會ハ先月十七日委員長副委員長ノ選舉ヲ終リマシテ、十九日カラ殆ド連日審査ニ著手イタシ、昨日マデ審査ヲ續ケタノデアリマス、其間小委員ヲ組織シ、小委員ノ手ニ於テ詳細ニ審査セラレタノデアリマス、審査ノ時日ノ多クハ此小委員會ノ審査ニ……

○議長(公爵德川家達君) 伊東子爵、モウ少シ大キナ聲デ……

○子爵伊東祐弘君 ハイ……此小委員會ノ審査ニ費サレテ居タノデアリマス、斯ノ如ク特別委員會ニ於テハ慎重審議ノ結果、御報告申上ゲマシタ通り兩案トモ修正議決イタスモノト決シタノデアリマス、民事訴訟法ノ改正ハ御承知ノ如ク多數ノ條項ニ互ル大部ノ改正デアリマシテ、此審査ガ比較的短キ時日ヲ以テ結了イタシマシタコトハ、特別委員、殊ニ小委員ノ方、ガ連日熱心ニ審査ニ努メラレマシタ賜デアリマシテ、其努力セラレマシタコトノ多大デアッタト云フコトハ、茲ニ特ニ附加ヘテ置キタイト思ヒマス、先ヅ民事訴訟法中改正法律案ヨリ申上ゲマス、此法案ガ成案ニ至リマスマデノ經過ニ付キマシテハ、司法大臣カラ御説明ガアリマシタカラ、茲ニハ省略イタシテ置キマス、本案ノ編成ノ大體ノ分チ方ハ現行ノ民事訴訟法ノ例ヲ踏襲イタシテ、唯、訴訟費用ノ規定ヲ當事者ノ章ヨリ分テ別章ト致シ、判決ト云フ表題ヲ裁判ニ改メ、之ヲ第一審ノ訴訟手續ノ編カラ移シテ總則編ニ入レ、督促手續ヲ獨立ノ一編トシタト云フ點デアリマス、而シテ其内容ノ改正ノ條項ニ涉ッテ最モ重ナル點ヲ申シマスレバ、第一ハ、準備手續ノ制度ヲ擴張シ、地方裁判所ノ管轄ニ屬スル訴訟ニ付テハ準備手續ヲ經ルコトヲ原則ト致シ、而シテ準備手續ニ於テ、受命判事ハ當事者ヲシテ一切ノ攻撃防禦ノ方法ヲ提出セシメ、爭點ヲ整理シ、之ガ解決ニ必要ナル總テノ證據ヲ申出デシメ、當事者ガ準備手續中ニ申出デザル事項ハ、訴訟ノ遅延ヲ來サザル場合、又ハ重大ナル過失ナクシテ準備手續中ニ申出デザリシ場合ノ外、之ヲ口頭辯論ニ於テ主張スルコトヲ得ザルモノトシテ、口頭辯論ニ於ケル審理ノ適正ト迅速トヲ期シタ點デアリマス、第二ハ、闕席判決ノ制ヲ廢止シテ、當事者ノ一方ガ口頭辯論ノ期

日ニ出頭セナイ場合ト雖モ、裁判所ハ其提出シタル訴狀、答辯書其他ノ準備書面ニ記載シアル事項ヲ斟酌シ、出頭シタル當事者ヲシテ辯論ヲナサシメ、通常ノ判決ヲナシ得ルコトトシタ點デアリマス、第三ハ、當事者ガ合意ニ依リ自由ニ期日ヲ變更シ得ル現行ノ規定ヲ改メ、濫リニ期日ヲ變更スル弊ヲ防イダ點デアリマス、第四ハ、訴ガ管轄權ヲ有セザル裁判所ニ提起セラレタル場合ト雖モ、之ヲ却下セズシテ管轄權アル裁判所ニ移送スルコトトシ、又管轄權アル裁判所ニ提起セラレタル場合ニアツテモ、當事者ニ著シキ損害ヲ生ジ、又ハ訴訟手續ノ遲滯ヲ來ス虞ノアル場合ニ於テハ、之ヲ他ノ適當ナル管轄裁判所ニ移送スルコトヲ得ルト爲シタ點デアリマス、第五ハ、當事者ガ故意又ハ重大ナル過失ノ爲ニ時期ニ後レテ攻撃防禦ノ方法ヲ提出シ、ソレガ爲ニ訴訟ノ完結ヲ遲延セシムベキ場合ニハ、當事者ノ申立ヲ待タズ職權ヲ以テ之ヲ却下スルコトガ出來ルトシタ點デアリマス、第六ハ、法人ニアラザル社團又ハ財團ト雖モ、代表者又ハ管理人ノ定メアルトキハ訴訟當事者タル能力ヲ有スルコトトシ、又共同ノ利益ヲ有スル多數ノ者ガ當事者ナル時分ハ、總員ノ爲ニ被告又ハ原告トナリ訴訟ノ衝ニ當ル者ヲ選ブコトガ出來ルトシタ點デアリマス、第七ハ、訴訟參加ノ制度ヲ擴張シテ、他人間ノ訴訟ノ目的ノ全部又ハ一部ヲ自己ノ權利ナリト主張スル者、又ハ他人間ノ訴訟ノ結果ニ依リ權利ヲ害セラルベキコトヲ主張スル者、或ハ訴訟ノ目的ガ當事者ノ一方ト合一ニ確定スベキ地位ニアル者ハ、何レモ他人間ノ訴訟ニ參加スルコトガ出來ルトシテ、複雑ナル紛争ヲ一度ニ解決シ、訴訟ノ多端ニ涉ル弊ヲ防イダ點デアリマス、以上ガ此改正ノ最も重要ナル點デアリマスガ、尙ホ其他證書訴訟手續及ビ爲替訴訟ノ手續ハ、多年ノ經驗ニ照シテ其實益少ク、却テ訴訟關係ヲ複雑ナラシムル弊ガアリマスカラ、之ヲ廢止シ、又ハ不適法ナル訴、或ハ上訴ニシテ其欠缺ヲ補正スルコト不可能ナルモノ、及ビ上告ノ理由ナキコト明カナルモノノ却下ノ手續ヲ簡易ニシタルコト、中斷シタル訴訟手續ノ受繼手續ハ不變期間ヲ懈怠シタル場合原狀回復ノ手續ヲ簡易ニシタルコト、證據調ハ事情ニ因リ職權ヲ以テモ之ヲ爲シ得ルコトトシ、輕微ナル訴訟ニ付テ上訴ヲ制限シ、又ハ上訴ノ期間ヲ短縮シタルコト、訴訟ノ繫屬中其債務ヲ承繼シタル者ノ爲ニ訴訟引受ノ制度ヲ認メタルコト、判決ハ職權ヲ以テ送達スルコトトシ、請求ノ拋棄又ハ認諾ニ付テハ、調書ニ記載シタル時ハ和解ト同ジク確定判決ト同一ノ努力ヲ有スルコトトシタルコト、疏明ノ方法ヲ擴張シテ

保證金ノ供託又ハ當事者ノ宣誓ヲ以テ之ニ代ヘルコトヲ得トシタ點、證人忌避ノ制度ヲ廢シテ證據採集ノ途ヲ擴メタルコト、宣誓ヲ嚴肅ニナスベキ規定ヲ設ケ、當事者宣誓ノ制度ヲ認メタルコト、鑑定囑託ノ途ヲ擴メ、當事者以外ノ第三者ニ對シ書證ノ提出又ハ檢證物ノ提示ヲ命ズルコトヲ得トナシタルコト、當事者雙方控訴ヲナサザル旨ノ合意ヲ認メタルコト、再審ニ付テ現行法ノ如ク取消ノ訴ニ依ルベキ場合ト、原狀回復ノ訴ニ依ルベキ場合トノ區別ヲ廢スルコト、督促手續ニ關スル規定ヲ改メテ、之ヲ簡易ニシタルコト、是ナドハ注意スベキ改正ノ點デアリマス、要スルニ本案改正ノ主眼トスル所ヲ約言イタシマスレバ、現行法中訴訟ノ遲延トナルベキ諸規定ヲ改メテ、專ラ其圓滑ナル進捗ト審理ノ適正ヲ圖ルト云フコトニ歸スルノデアリマス、次ニ民事訴訟法中改正法律施行法案ノ要旨ハ民事訴訟法ノ改正ニ伴ヒマシテ新法即チ改正法ト、舊法即チ現行法トノ規定ヲ調和シ、事件ノ處理ノ圓滑ヲ圖ッタノデアリマシテ、其主眼トスル處ハ左ノ三點ニ歸スルノデアリマス、第一ハ、新法施行前ニ生ジタル事項ニモ原則トシテ新法ヲ適用スルコト、第二ハ、舊法ニ依ッテ既ニ生ジタル效力ハ新法ニ依ッテ之ヲ妨ゲナイヤウニスルコト、第三、新舊兩法ヲ比較イタシテ成ルベク當事者ノ利益ニナル規定ヲ適用スル方針ヲ取ツタコト、以上ハ其主眼トスル點デアリマス、次ニ特別委員會ノ質問ノ主ナルモノヲ一二申上ゲヤウト思ヒマス、第一ハ、今回提案トシテ提出セラレタル條項ノ中デ、最も必要トナル點ヲ考ヘテ見ルニ、改正理由書ニ掲ゲアルモノハ、七ツノ事項デアアル、若シ然リトスレバ、今回ノ如キ全部ノ改正ヲ必要トスル理由ハ無イカノ疑ガ起ル、解釋上又ハ常識ノ判斷、或ハ大審院ノ判例ニ依ッテ今日マデ別段差支ナク行ッテ居ルモノハ、其儘ニシテ置イテ宜シイデハナイカ、現行法ハ既ニ四十年近ク實行サレテ、裁判官ハ勿論、辯護士其他一般ノ民衆ハ慣熟シテ居ルノデ、斯カル法律ヲ全部改正スルコトハドウカト考ヘル、訴訟ノ遲延ハ、必シモ法ノ不備バカリデナク、其進捗ヲ圖ル上ニ於テ厲行シテ然ルベキ條項ヲ厲行セズ、又之ヲ好マナイガ爲ニ生ズルモノモアル、斯ク考ヘレバ、改正ノ理由ノ最も必要トスル訴訟遲延ノ原因ヲ除クト云フ改正ノ點ハ、左程多クナイヤウニ思ハレルガ、ナゼ當局トシテハ其必要ナル改正ニ止メテ、其他ハ其儘ニシテ置イテ宜シイト云フ考ハナイカ、即チ一部改正ヲ満足スル意思ガナイカト云フ質問デアリマシタ、之ニ對シテハ左ノ答辯ガアッタノデアリマス、現行ノ民事訴訟法ハ明治二十三年ニ制定セラ

レ、殆下母法トモ云フベキ獨逸ノ訴訟法ヲ翻譯シタモノデアツテ、獨逸ニ於ケル慣習ハ既ニ變更セラレテ居ルニ拘ラズ、法律ノ精神ガ尙ホ存シテ長イ間不便ヲ恐ンデ居ッタノデアアル、今日改正スル要點ハ七ツノ點デアアルヤウニ説明書ニハ説明ガアルケレドモ……理由書ニハ説明シテアルケレドモ、是ガ全部ノ改正……全部ト云フ趣旨デハナクシテ、訴訟ノ迅速並ニ審理ノ適正ヲ期スル爲ニ必要ナル改正ノ條項ハ、非常ニ多クアルノデアアル、民事訴訟法トシテハ全般カラ見テ頗ル重要ナル部分ニ互ツテ居ル、唯一部ノ改正デハ能ク其精神ヲ徹底シ理解セシメテ、豫期スル所ノ訴訟ノ促進ト審理ノ適正トヲ期スルコトガ甚ダ困難ト考ヘル、政府トシテハ全部ノ改正ガ最モ適當ナリト信ジテ居ルノデアアル、又各條項ニ互ツテ見ルノニ、多年ノ經驗、實際ノ便否、學理上ノ議論ヲ討究シタ結果、手ヲ染メナケレバナラヌ條項ガ非常ニ多クアツテ、各條項ト全部ニ互ツテ居ルト云フテ宜シイ位デアアル、斯カル狀態デアレバ、立法ノ技術トシテモ、全部ノ改正ヲ必要トスルト云フ答辯デアリマシタ、第二ハ、民事訴訟法ト云フモノハ、裁判官、辯護士、法律、此三ツノモノガ揃ハナケレバ、到底圓滿ナル實行ガ遂ゲラレナイト考ヘルノデアアルガ、裁判官ノ實質上精神上ノ優遇ハ著々圖ラレテ居ルト云フコトハ聞イテ居ルガ、辯護士法ノ改正ニハ如何ナル點、又如何ナル工合ニ改正セラレルノデアアルカ、例ヘバ今日辯護士ハ日本全國ニ互ツテ業務ヲ取扱フコトガ出來ルヤウニナツテ居ル、其爲メ時間ノ衝突ガ起テ、期日ノ延期ト云フコトモ自然ニ起ルヤウナコトニナル、又辯護士實務ノ實習ト云フコトモ必要ト考ヘル、實際ノ取扱ノ不慣レノ爲メ訴訟ノ延期ヲ來ス場合ガナイトモ限ラナイノデアアル、是等ニ付テ司法大臣ハ如何ニ考ヘテ居ラレルカト云フ質問デアリマス、之ニ對シテハ、裁判官、檢察、辯護士、此三ツノモノガ裁判所構成法ノ認メル必要ナル機關デアツテ、其爲ス所ノ職能ハ各、異ナツテ居ルケレドモ、國家ノ司法權ニ參與シテ其行使ノ徹底ヲ期スルト云フ點ニ至ツテハ、皆目的ハ一ツデアアル、故ニ辯護士ニ對シテハ、常ニ此立場ヲ尊重シテ職務ニ當ルコトヲ希望シ、屢、會同ヲ催シテ、部内ノ各首腦ト互ニ司法ノ改善ニ努力シヤウト云フコトヲ申シテ意見ヲ交換シテ居ル、既ニ昨年八月以來十數回ノ會同ヲナシテ居ル次第デアアル、辯護士法ノ改正ニ付テハ、若シ多年ノ面白クナイ慣習ガアリトスレバ之ヲ除キ、民事訴訟法ノ目的トスル同一ノ目的ニ向ツテ改正ヲ進メナケレバナラヌト考ヘテ居ル、辯護士法ノ改正委員會ニ於テ、色々ノ點ガ議論ガアルヤウデ、辯護士ノ事務

執行ノ事ニ付テモ問題トナツテ考究中デアアル、又辯護士事務ノ實習ト云フ點モ相當考慮スベキ點デアアルト考ヘテ居ル、宛ニ角辯護士法ノ改正ニ付テハ、辯護士ノ多クノ人々及裁判官、檢察等出身ノ委員ガ目下調査中デアアルト云フコトデアリマス、第三ハ、民事訴訟法ハ事件行使ノ手續デアアルカラシテ、成ルベク簡易ニ、敏速ニ、又適正ニ行カネバナラヌト考ヘル、現行法ノ規定ノ中デモ裁判官ガ厲行シナイモノ、又其厲行ヲ憚ルガ爲ニ、幾分カ訴訟遲延ノ原因トナルベキモノガ無イデハナイカト考ヘル、訴訟遲延ヲ防ギ、審理ノ適正ヲ圖ルヲ主眼トシテ改正セラレタ以上ハ、是等ノ趣旨ヲ裁判官ニ徹底セシムル考ハ無インデアアルカ、之ニ對シテハ、當局ニ於テハ此點ハ非常ニ重大ニ考ヘテ、法案ガ通過シタ以上ハ、其重要ナ改正デアアルト云フ趣旨ヲ司法部内ニ徹底セシムルニ十分最善ノ努力ヲ致ス考デアアル、大正十七年中ニ施行スル司法研究ニ關スル經費ヲ以テ、地方裁判所ノ部長以上ニ該當スル人々ヲ東京ニ會同スルコトトナツテ居ルカラ、一方面デハアルケレドモ、之ニ依ツテモ改正法ノ趣旨ハ十分徹底シ、又辯護士ノ會同ニ對シテモ其趣旨ヲ徹底セシムルヤウニシテ、相俟ツテ法律ノ精神ガ貫徹スルヤウニ努力スル積リデアアル、又是ハ司法行政ノ衝ニ當ル者ノ殆下全部ノ責任デアアルカラシテ、最善ノ努力ヲ致シテ其徹底ヲ圖ル、而シテ法律ガ圓滿ニ行使セラルルコトヲ期スル次第デアアル、ト云フ答辯デアリマス、マダ二三質問モアリマシタケレドモ、此位ニ止メテ置キタイト思ヒマス、特別委員會ニ於テ大體ノ質問ガ終ラムトスル時ニ當リマシテ、動議ガ提出セラレタノデアリマス、即チ議事進行ヲ圖ル爲、小委員ヲ組織シテ、兩案ヲ小委員ニ付託シ、詳細ナル審査ヲ遂ゲテ、其報告ヲ俟ツテ討論ニ移ルヤウニシタイト云フ動議デアリマシタ、此動議ハ成立ヲ致シマシテ、兩案ヲ小委員ノ手ニ付託スルコトトナツタノデアリマス、小委員ハ六名ヲ選バレタノデアリマス、而シテ其小委員ノ方々ハ皆法律ニ博識ニシテ經驗ヲ有セラレ、殊ニ裁判實務ニハ多年ノ經驗ヲ有セラレ素養ノ積ンデ居ラレル方々ガ多クアリマシタ、先月二十日カラ、一日休マレタ外連日殆下午前午後ニ互ツテ審査ニ努メラレタノデアリマス、其回数ガ實ニ十一回ニ及ンダノデアリマス、其質疑ハ準備手續、闕席判決ノ制ヲ廢スルノ可否等カラシテ、必要ナル各條項ニ互ツテ皆ナ要點ヲ質サレタノデアリマス、現行ノ民事訴訟法ハ勿論、民法、商法、刑事訴訟法ノ規定ト比較シ、改正法案ニ於ケル各條項

ノ異同ノ點、立法ノ精神、或ハ字句又ハ實際上適用ノ便否、利害等ニ至ルマデ、多クノ質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シテ政府委員ヨリ亦懇切詳細ナル答辯モアッタノデアリマス、質疑ガ終ツテ後、辯護士ノ各團體カラ出サレテ居リマスル所ノ修正意見ニ付テ、政府委員ヨリ之ニ對スル意嚮ヲ聽取サレタノデアリマス、又懇談會ヲ開イテ、各委員ノ腹藏ナキ意見ハ勿論、政府當局トモ十分ニ意見ヲ交換セラレタノデアリマス、而シテ後ニ各委員ニ依ツテ各注意スベキ條項ヲ選ンデ、修正スルノ必要ガアリヤト云フ點ニ付イテ意見ヲ闘ハサレタノデアリマス、其間政府當局トモ意見ヲ交換セラレタノデアリマス、懇談會ヲ開カレルトコトガ數回ニ及ンダノデアリマス、小委員會ニ於テハ以上ノ如キ經過ヲ以テマシテ、詳細ニ又慎重ニ審議セラレマシテ、兩案ハ修正スルコトニ決定イタシタノデアリマス、小委員會ニ於ケル質問應答ハ實ニ各條項ニ互ツテ數多クアリマスカラ、茲ニハ一々申上グルコトヲ省略イタシタイト思ヒマス、是等ノ質疑應答ハ速記録ニ全部留メテアリマスカラ、何卒速記録ヲ御覽ヲ願ヒタイト考ヘマス、又修正ノ點ニ付テハ最後ニ申述ブルコトニ致シマス、小委員會ノ審査ガ終リマシテ、特別委員ノ總會ヲ開キ、小委員會ノ決定ノ報告ヲ聽キ、討論ニ移リ、採決ノ結果ハ全會一致ヲ以テ兩案共ニ小委員會決定通り修正議決スベキモノト決セラレタノデアリマス、終リニ修正ノ點ニ付テ、民事訴訟法中改正法律案ヨリ申上ゲマス、修正ノ條文ヲ朗讀イタシマスコトハ省略イタシマシテ、其理由ヲ簡單ニ申上ゲタイト思ヒマス、第十五條ノ二項ノ修正ハ、第二項ニ於テハ船舶ノ衝突ニ基ク損害賠償ノ訴ニ限ツテ居リマスケレドモ、ソレ以外海上ノ事故ニ因ツテ生ジタル損害賠償ノ訴ニ付テモ、此規定ニ依ラシムルコトガ便宜トシテ修正サレタノデアリマス、第三十五條ハ、判事ガ當事者ノ後見監督人又ハ保佐人ナル場合ニモ、除斥ノ原因トナスヲ適當トシテ修正イタシタノデアリマス、即チ現行ノ刑事訴訟法ト同一ニナルノデアリマス、第五十七條ハ、代理權消滅ノ效力ノ發生ヲ、相手方ガ代理權消滅ノ事實ヲ知リタルヤ否ヤト云フ點ニ係ハラシムルトキハ、此點ニ付テ爭フ多カラシムル虞ガアリマスカラ、之ヲ削除イタシタノデアリマス、第八十二條及八十三條ハ、八十三條ニ於テ、例ヘバ支配人ノ如キ、商法上共同シテ代表權ヲ有スル者ノ權限ヲ妨ゲナイヤウニシテ居ルノデアリマスケレドモ、斯ノ如キモノモ、第八十二條ノ規定スル各自代理權ヲ認ムルヲ實際上便宜トナシテ、之ヲ修正イタシタノデアリマス、第四百九條ハ、

裁判所ガ當事者其他第三者ヲ審訊スル場合ニ於テモ、其調書ヲ作成セシメテ……作成セシムルコトガ、必要デアリマスカラ、口頭辯論調書ニ準ジテ審訊調書ヲ作成スルモノトシタノデアリマス、第七十條ハ、原文ノ意味ガ不明ノ點ガアリマスカラ、之ヲ明カニシタニ過ギナイノデアリマス、第八十九條ハ、判決ノ作成ノ遲延スルコトハ、其原本ヲ作成シナクシテ之ヲ言渡スコトニ起因スルコトガ無イノデモナイノデアリマスカラ、判決ノ言渡ハ判決原本作成ノ上之ヲ爲スベキモノト致シタノデアリマス、第九十條及第九十二條ハ、唯今申上ゲマシタ百八十九條ノ修正ニ關聯シテ居ルノデアリマシテ、判決ノ言渡ハ判決原本作成ノ上爲スコトトナリマシタカラ、其言渡ハ口頭辯論終結ノ日ヨリ一週間内トアリマスノヲ「二週間内」ト致シテ、其時日ヲ少シ延長シタノデアリマス、又事件ガ繁雜ナル場合又ハ特別ノ事情アルトキハ又例外ヲ認メタノデアリマス、又判決原本作成後其言渡ヲ爲スコトトナリマシタカラ、言渡後直チニ原本ヲ書記ニ交付スルコトガ出來マスカラ、判決ハ言渡後遲滯ナク裁判所書記ニ交付スベキモノト爲シテ、第九十二條ヲ改メタノデアリマス、第九十四條ハ、當事者ノ氏名又ハ住所ニ誤謬ナドガアリマシテ、判決ノ主文又ハ理由ニ影響ヲ及ボサナイ場合デモ、誤謬ヲ更正スル場合ハ勘ナクナイノデアリマスカラ、第一項但書ヲ削除イタシタノデアリマス、第九十六條ハ假執行ノ宣言ハ事財產權ニ關シマスカラ、當事者ノ申立ニ因リテモ亦之ヲ爲サシムルヲ必要トシタノデ、又假執行ノ宣言ヲ免ルルコトノ……假執行ヲ免ルルコトノ宣言ニ付テモ同様デアリマスカラ、其申立ヲ許シタノデアリマス、第二百四條ハ、決定及命令ノ效力ハ告知ニ依ツテ發生スルモノデアリマスカラ、告知ノ方法、場所、年月日等ハ之ヲ明確ニシテ、當事者其他之ヲ受クル者ノ利益ヲ確保スル必要ガアリト致シテ、告知ノ方法、場所等ヲ明確ニスル趣旨デアリマス、第二百三十八條ハ、本條ノ期間ハ少シ長キニ失スルト云フコトデ、之ヲ三箇月ニ改メタニ過ギナイノデアリマス、第二百六十九條ハ、矢張り是モ本條ノ過料ノ制裁ガ少シ重キニ過ギルト云フ點デ、之ヲ引下ゲタノデアリマス、第二百九十六條ハ、證人ノ訊問ハ、後ニ訊問スベキ證人ノ居ナイ所デ爲スガ本則デアリマスカラ、其趣旨ヲ明カニシタニ過ギナイノデアリマス、第三百三十六條ハ、當事者訊問ハ現行法ノ認ムル如ク、申立ニ因リテモ爲スコトヲ得ルモノト爲シテ、特ニ其申立ヲ許サナイコトトスル理由ガナイノデアリマスカラ、申立ニ因リテ許スコトモ出來ルヤウニシ

タノデアリマス、第三百三十九條ハ、二百六十九條ノ修正ト同一デアリマス、第三百六十一條ハ、控訴ノ制限ハ……制限ノ金額ハ、或ハ生活ノ程度ニ依ッテハ多額ニ失シハシナイカト云フコトデ、之ヲ二百圓ニ引下ゲタノデアリマス、第三百六十四條ハ、控訴ノ取下ハ訴ノ取下ト異ナリマシテ、事實上控訴權消失ノ結果ヲ來スコトガ多クアリマスカラ、之ニ付テ相手方ノ同意ヲ得ルコトヲ必要トスル理由ハナカラウト云フコトデ、之ヲ修正シタノデアリマス、第三百七十一條ハ、單ニ是ハ文字ノ修正デアリマシテ、他ノ用例ト一致セシムル爲デアリマス、第三百七十三條ハ、第三百六十一條ノ修正ノ結果デアリマス、第四百二十四條ハ、本條ノ期間ハ少シ短キニ失シハシナイカト云フコトデ、現行法ノ如ク之ヲ三十日ト致シタノデアリマス、次ニ民事訴訟法中改正法律施行法案ノ修正ハ、第二條ハ、唯文字ノ修正デ、他ノ條文ト用例ヲ同ジクシタダケデアリマス、第十一條ハ、民事訴訟法中改正法律案ノ第三百六十一條ノ修正ノ結果デアリマス、而シテ是等ノ修正ニ對シテハ、政府ハ全然同意ヲサレタノデアリマス、以上ヲ以チマシテ兩案ノ御報告ヲ終リマス

○議長(公爵徳川家達君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○子爵榊隆督君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵五條爲功君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 兩案全部ヲ問題ニ供シマス

〔土方寧君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵徳川家達君) 土方君ハドウ云フコトデアリマスカ

○土方寧君 政府ニチヨット質問ガシタウゴザイマス、此ノ席デ簡單デゴザイマスカラ……

○議長(公爵徳川家達君) 質問デスカ、宜シウゴザイマス

○土方寧君 政府ハ此委員會ノ修正ニ御同意デアリマスカヤ否ヤヲ伺ヒタイ

〔國務大臣江木翼君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(江木翼君) 全部同意デゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 委員會ノ修正ニ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、他ハ原案ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○子爵榊隆督君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵五條爲功君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ兩案ノ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 兩案トモ第二讀會ノ決議通りデ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公爵徳川家達君) 兩案トモ第二讀會ノ決議通りデ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 次ノ議事日程ハ、決定次第後トヨリ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會イタシマス

午前十時五十六分散會

